

ひとが動かす

地域変える海外の目

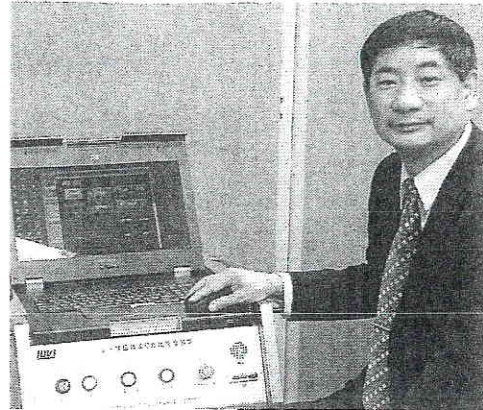
科学の街、茨城県つくば市で検査装置などを開

発するつくばテクノロジー。社内にはパソコンとつながる箱形の装置が並ぶ。「世界初の独自技術が詰まっています」。中国出身の社長、王波が手を添え、魔になる部材を取り外すなどの手間が省け、費用も抑えられる。

映画がきっかけ

事業の中核は、検査対象物の表面にレーザーを照射して生じる超音波で亀裂など内部の異常や欠陥を検知する「レーザー超音波可視化検査装置」や省電力の「小型X線検査装置」を開発。王が勤めていた産業技術総合研究所の技術移転ベンチャーとして、高い技術に大手企業も注目する。「インフラの老朽化や事故を起こした原子力

発電所の現場などでも役立つことは多い」。旺盛な探求心は少年の頃からだ。5人兄弟の4番目として内陸部の陝西省漢中市で生まれた。時計を解体したり自転車を組み立てたりと、好奇心や器用さは折り紙つき。勉強好きで努力家で「早稲を測る技術に感動。『自分も作りたい』と思った。ただ、文化大革命の影響でいったん農村で農業に従事。大学教育の再開



つくばテクノロジー社長 王波氏

《王波氏のプロフィール》

1960年	中国陝西省漢中市で生まれる
82年	西安電子科技大学を卒業。同大学の助手に
93年	筑波大学大学院に研究生として留学
99年	通信総合研究所（現情報通信研究機構）に勤務
2001年	工業技術院・産業技術融合領域研究所（現産業技術総合研究所）に勤務
05年	つくばテクノロジー設立

「レーザーを使う検査需要は多い。見えなかったものを見えるようにしたい」

レーザー検査「死角」なし

後に西安電子科技大学に入学した。レーザーの回路設計などを学び、同大学の教員となった。大学の同僚だった妻が日本に留学していたことや、講演で訪中した日本人大学教員の紹介で筑波大学に留学した。「帰国するつもりだったが、つりくばは住みやすく、研究も落ちついてできる」。日本の永住権を得て、苦足した顔を見ると「お客の手だった納豆も毎日食べようになった」。

科学の街舞台 飽くなき改良

「せっかくの技術も製品化しないと眠ってしまう。技術で社会貢献したくない」。日本の研究機関に勤めて抱いた使命感が起業に駆り立てた。信念は15人の社員を抱える今も揺るがない。

「愚直さ、信頼生む」。細かい欠陥の検出や3次元映像化、小型装置の開発など改良に終わりはない。趣味のドライブで息抜きしつつ、休日も美しい。日本の研究機関に検査室にこもる日が多い。「手掛ける分野でトップ企業になる」。穏やかな目に強い意志がみなぎる。

技術には自信があったが、経営は未経験。法律や税務の知識、営業ノウハウが乏しく、当初は苦労した。だが、顧客の多い要望に丁寧に対応。「仕事に責任を持ち真面目にやる」愚直さが周囲を驚かせた。「納品には立ち会うようにしている」。顧客の満足を期す。納品には立ち会うようにしている。「顧客の満足を期す。納品には立ち会うようにしている」。

（敬称略）